

11
小国 117
学 図

教科書文庫
6
810
34-1949
0130449927

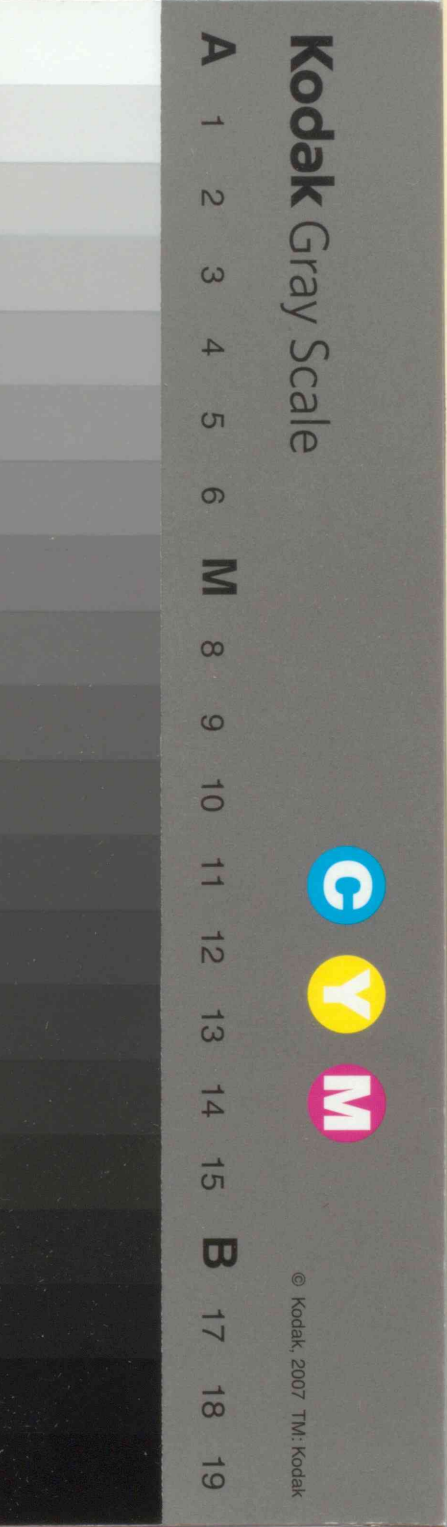
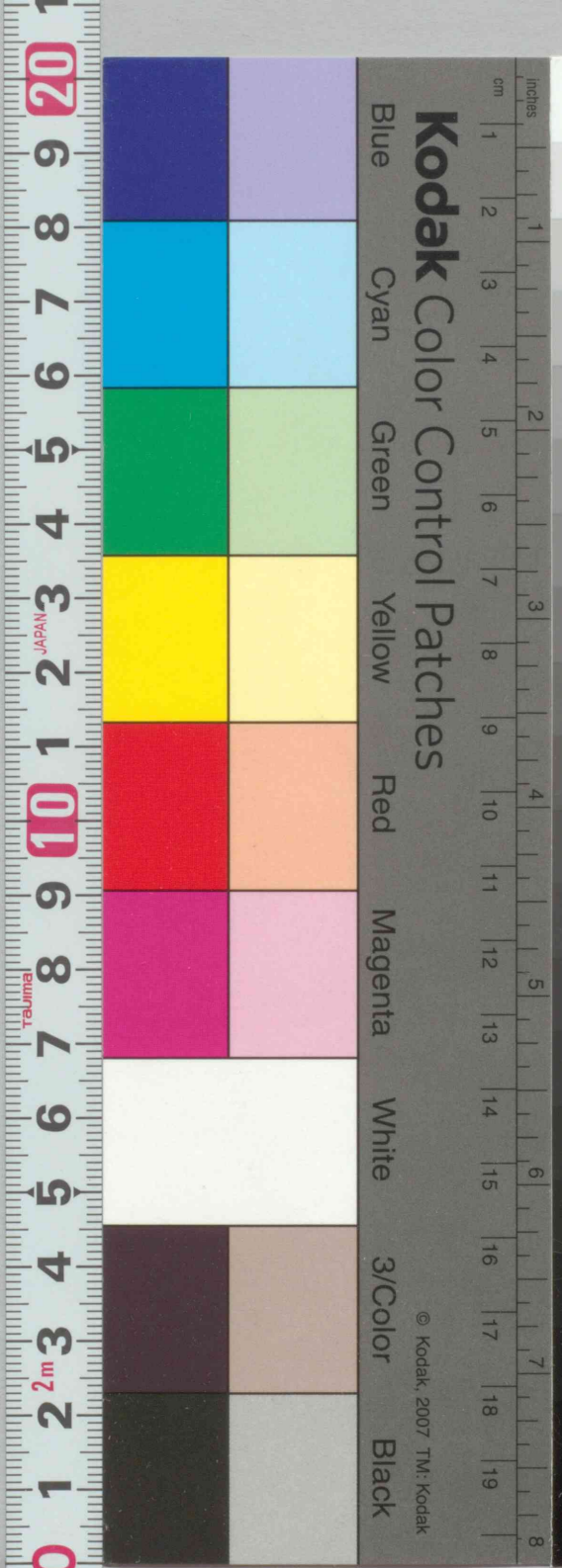
文部省 検定 済教科書
財団法人 学校図書研究会 編修

ハレハレ！ねんせい 中



KC
G16
k

学校図書株式会社発行



60333
教科書文庫
6
810
34-1949
01304
49927



寄贈

教科書文庫
6
810
34-1949
0130449927

昭和二十四年十月十日文部省検定済小学校国語科用

こくご一ねんせい

広島大学図書

0130449927



学校図書株式会社

中央図書館

広島大学図書

0130449927





もくろく

(一) あさ

一 おひさま.....4

二 あさがお.....6

三 ひろしさん.....7

四 しんぶん.....9

(二) かわいい おともだち

一 ひよこ.....11

二 うさぎ.....14

三 しろ.....17

(三) みんな いっしょに

四 おにんぎょうさん.....20

一 おべんとう.....23

(四)

二 うちを できました.....26

三 いなかみち.....29

四 あかどんぼ.....32

五 山の 上.....36

ゆうはんが すんで

一 おてつだい.....40

二 らじお.....44

三 うでずもう.....48

四 おはなし.....50

おしごとの てびき.....55

あたらしく できた ことば.....60

かんじ.....62





(一) あさ

— おひさま

おひさま、おひさま、

きれいだな。

きらきら、おひさま、

きれいだな。

おはよう、おはよう、

きれいだな。

おかお あらって、

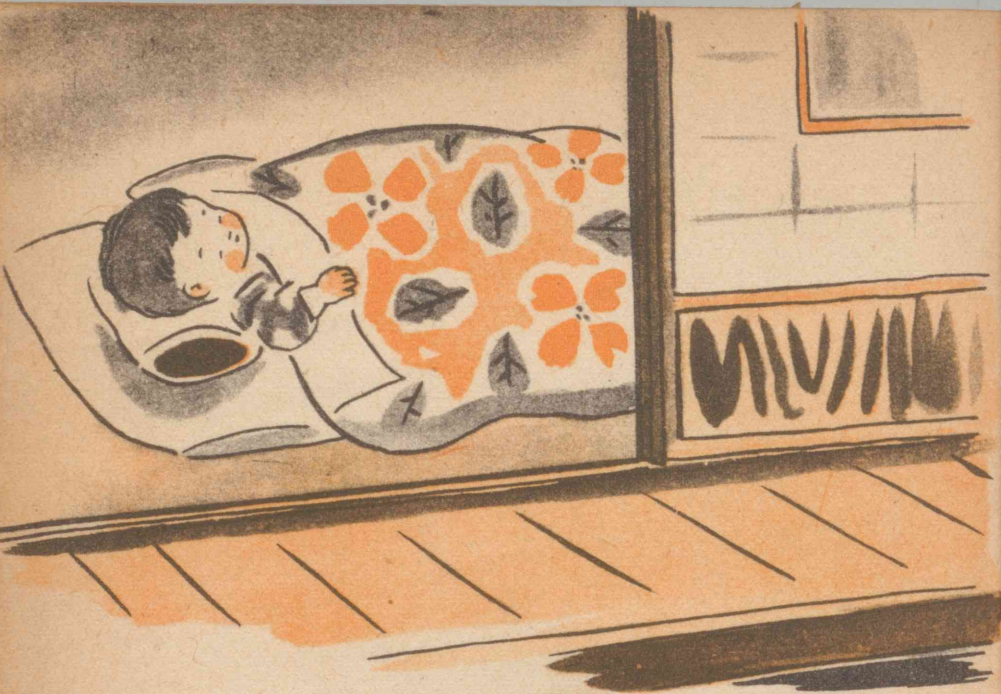
うれしいな。

あさの たいそう、

うれしいな。

おひさま きらきら、

うれしいな。



二 あさがお

「よしこさん、あさがおが
さいたよ。」

あかい あさがお。

しろい あさがお。

あかい あさがお。

一、二、三、四、五。

いっつ さいたね。



三 ひろしさん

まさおさんが、

「ひろしさん、ひろしさん。」

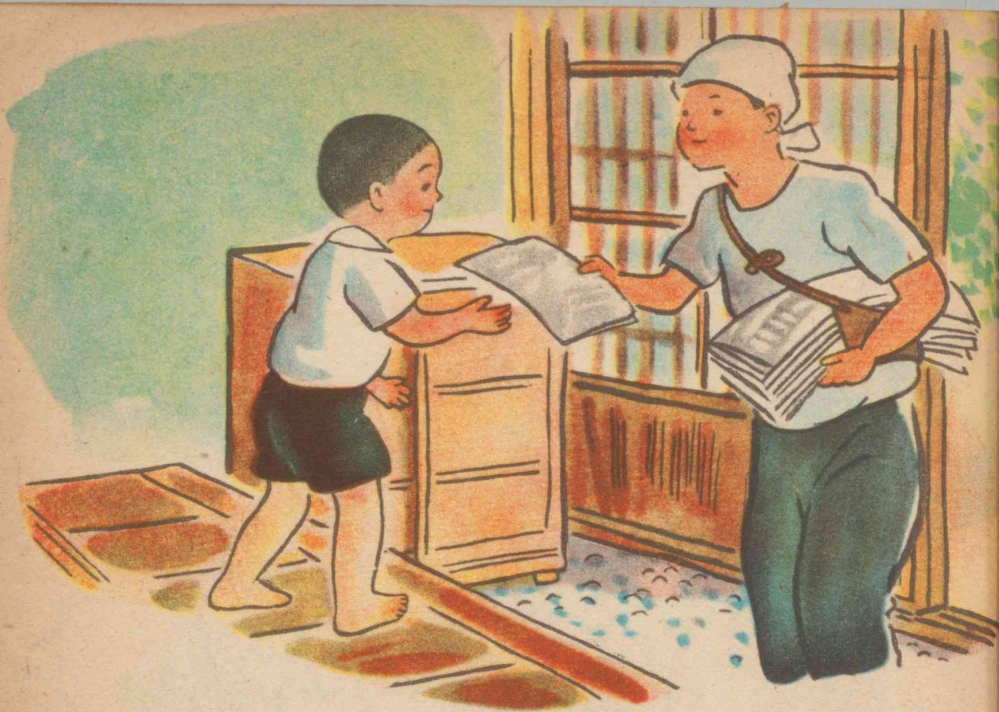
と、よびました。

よしこさんが、

「ひろしさん、あさがおが

さいて いるよ。」

と、よびました。

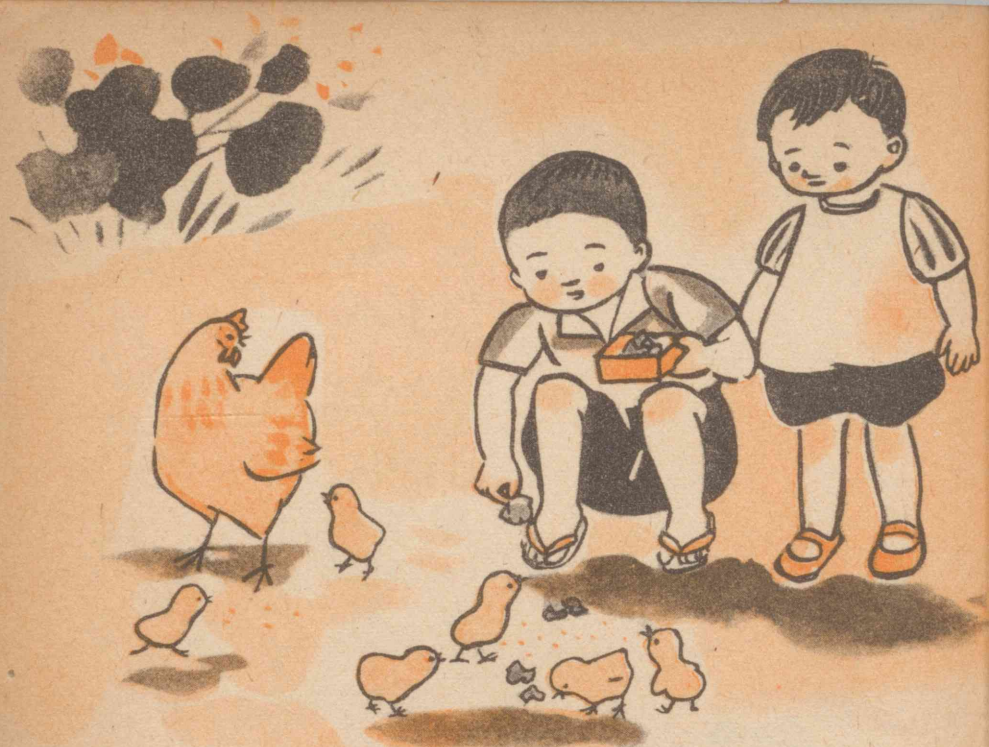


おかあさんが、
 「ひろしさん、おひさまが
 できましたよ。」
 と、おっしやいました。
 ひろしさんは、
 「もう、あさなの。」
 と、いって、とびおきました。



四 しんぶん

しんぶんが きました。
 おとうさんが、しんぶんを
 みて いらっしやいます。
 まさおさんも みて います。
 ひろしさんも みて います。
 しろは、みんなの かおを
 みて います。



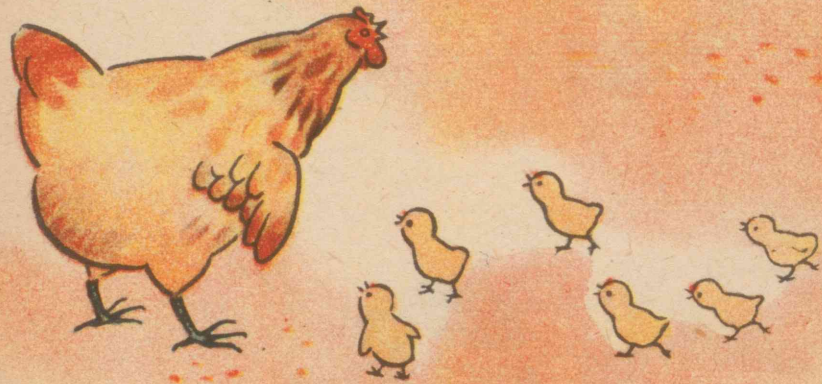
ひろしさんが、
 「おとうさん、なにが
 かいて あるの」。
 と、いいました。
 まさおさんが、
 「ひろしさんの あさねぼう
 と、かいて あるでしょう」。
 と、いいました。
 みんなは わらいました。



(二) かわいい おともだち

一 ひよこ

まさおさんが、
 「おいで、おいで」。
 と、よびました。
 ひよこは、
 「ぴよ、ぴよ、ぴよ」。
 と、はしって きます。



まさおさんが、えさを
やりました。

「ぴよ、ぴよ、ぼくのだよ。」

「ぴよ、ぴよ、わたしのよ。」

ひよこは とりあいを
します。

「こ、こ、こ、こ。」

「おやどりが よんで
います。」

「こ、こ、こ、こ、はやく



はやく、ねこが きたよ。」

と、よんで います。

「ぴよ、ぴよ、ぴよ。」

ひよこは はしって

いきました。

「おやどりに だかれて、

「ぴよ、ぴよ、よかったね。」

「ぴよ、ぴよ、よかったね。」

と、いきました。

二 うさぎ

まさおさんは のはらに

いきました。

うさぎさんと

いきました。

うさぎさんは、

うれしそうに くさを

たべます。



しろが きました。

うさぎさんは、

ぴよん、ぴよん、

とんで いきます。

しろも、

ぴよん、ぴよん、

とんで いきます。

うさぎさんと、

しろが

きょうそうです。





よしこさんが
うさぎさんを だきました。
ひろしさんも だきました。
ひろしさんが、
「うさぎさんのめ、あか」
いね。」と、いいました。
うさぎさんは
うれしそうです。
ひろしさんも
うれしそうです。



三 しろ

まさおさんが、
「しろ、おいで。」
と、いうと、しろは
はしって きます。
まさおさんが はしる
と、しろも はしります。



まさおさんの ぼうしが
とびました。
まさおさんが、
「しろ、
しろ。」
と、よびました。
しろは、ぼうしを
とって きました。



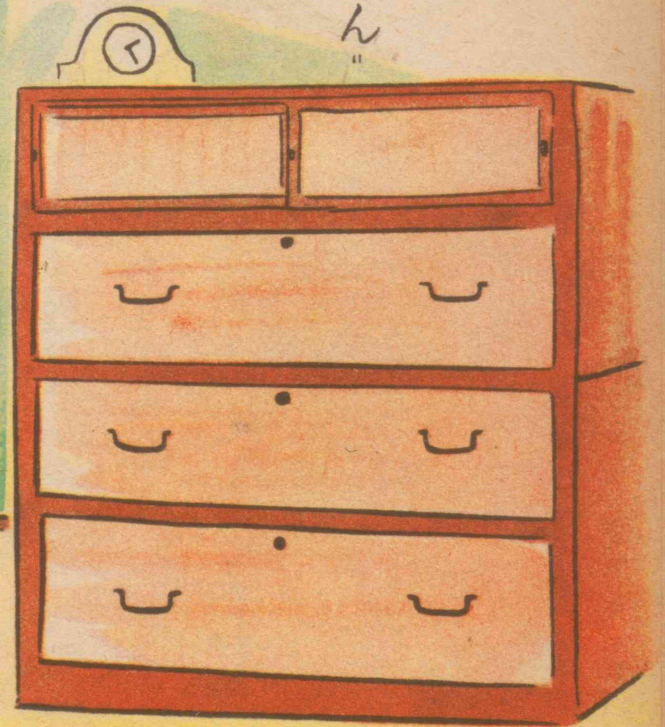
まさおさんは、しろと
おはなしを します。
「おたち。」
と、いと、しろは
たちます。
「おまわり。」
と、いと、しろは
まわります。
しろは、まさおさんの
おともだちです。

四 おにんぎょうさん

まさおさんと よしこさん
が、かえって きました。

まさおさんは、
「おにんぎょうさん、
ただいま。」

と、いいました。
よしこさんも、
「おにんぎょうさん、

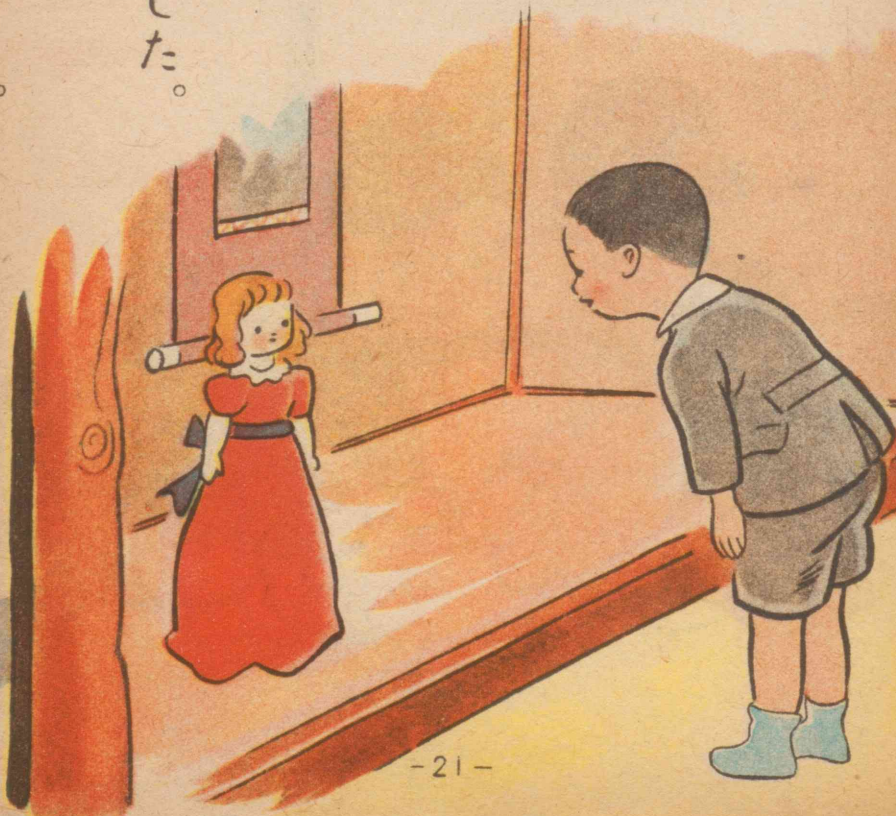


ただいま。
と、いいました。

おにんぎょうさんは、
あかい ふくを きて
います。

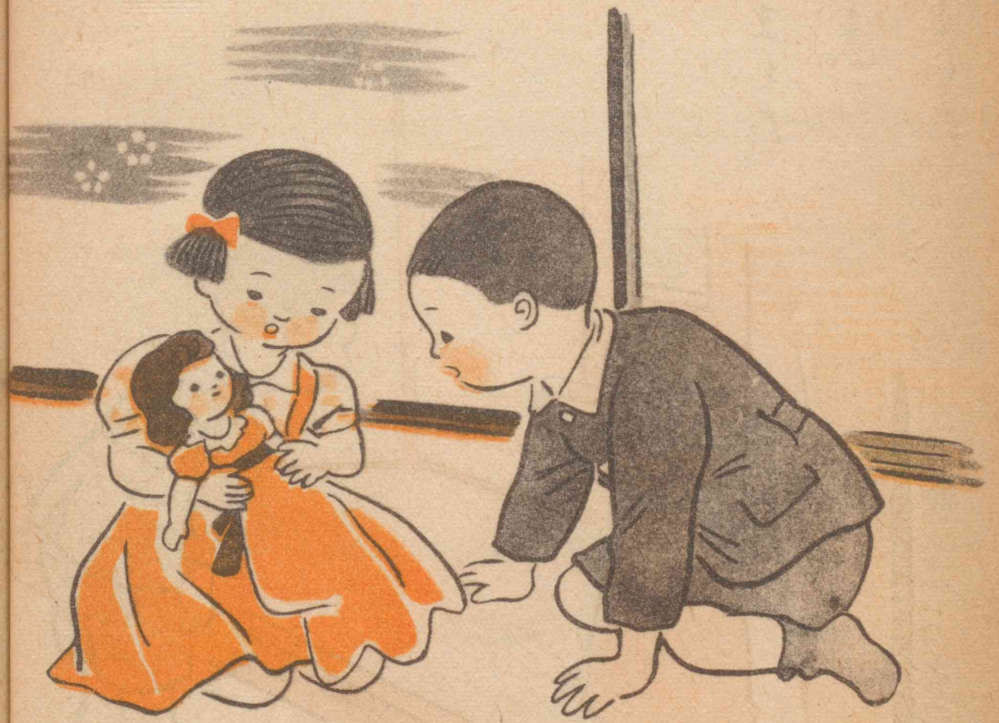
「おにんぎょうさん、
かわいいね。」

と、まさおさんが いいました。
「かわいい おともだちよ。」
と、よしこさんが いいました。





よしこさんは、
おにんぎょうさんを
だきました。
まさおさんは、
「ねんねんころりよ」
と、うたいました。
よしこさんも
うたいました。
おにんぎょうさんは
うれしそうです。



(三) みんな いっしょに
— おべんとう
おかあさんが、おべんとう
をつくって いらっしゃい
ます。
おねえさんも つくって
います。

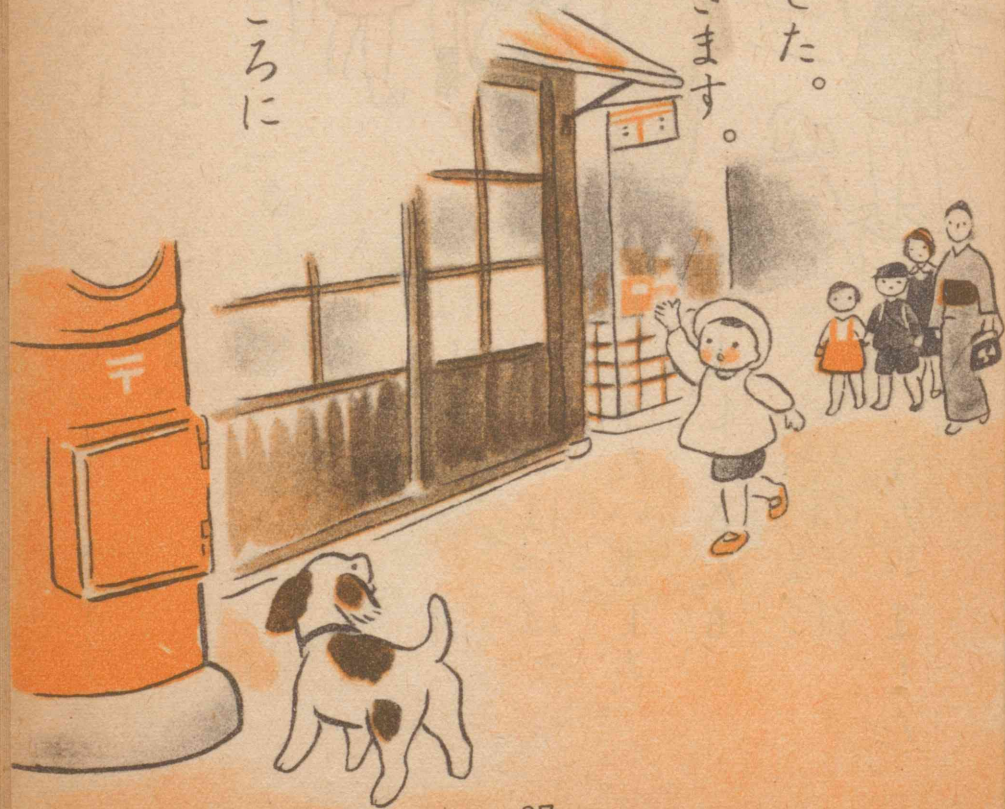
まさおさんが、
「もう、おべんとうなの。
と、いいました。
みんなが わらいました。
まさおさんの おべんとう。
よしこさんの おべんとう。
ひろしさんの おべんとう。
みんなの おべんとうが
できました。



ひろしさんが、
「おべんとう つくってね。
と、いいました。
「ひろしさんにも、つくって
あげますよ」。
と、おかあさんが おっしや
いました。
ひろしさんは、
「おむすび おいしいね」。
と、いって、たべました。



ひろい みちに できました。
 しろが はしって いきます。
 ひろしさんは、
 「しろが いない」。
 「しろが いない」。
 と、いいました。
 しろは、ぽすの ところに
 いました。



ニ うちを できました
 みんなで うちを できました。
 しろも ついて きました。
 まさおさんは、よしこさんと
 てを つなぎました。
 ひろしさんは、
 おかあさんと てを
 つなぎました。

三 いなかみち

いなかみちに できました。

ひろい たんぼが みえます。

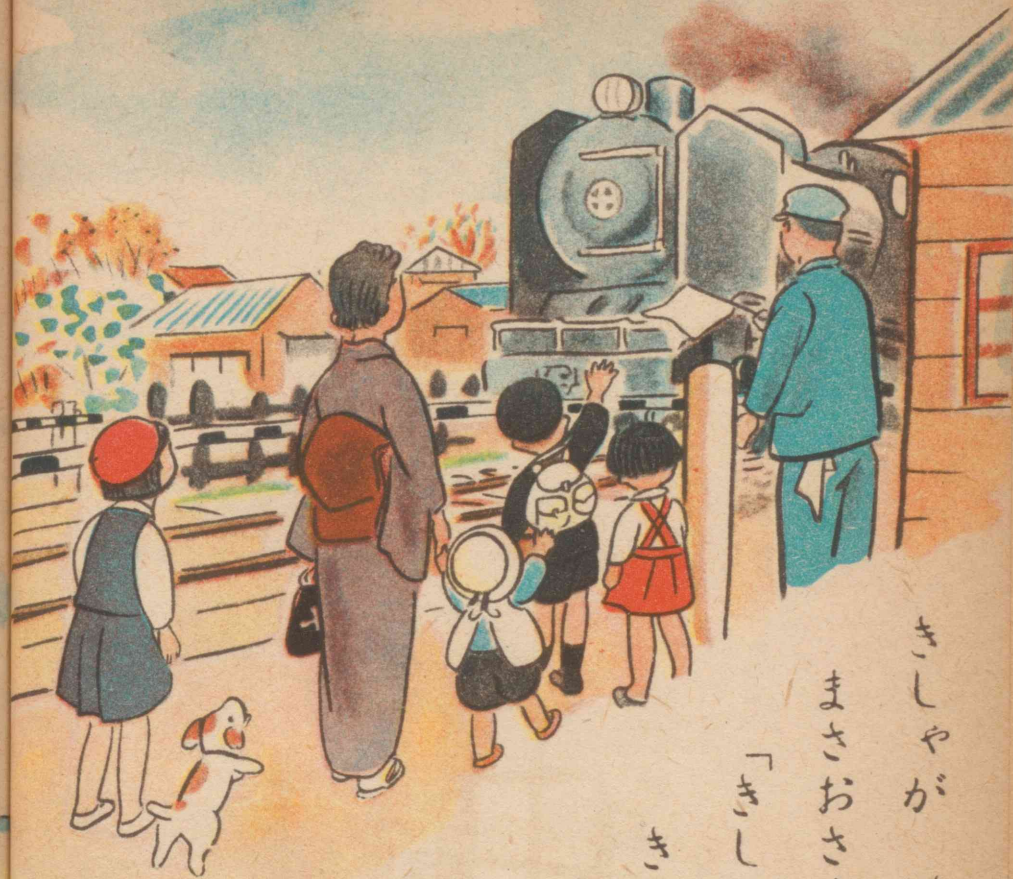
いえが みえます。

まさおさんは

はしりだしました。

しろも はしりだし

ました。



きしゃが はしって きます。

まさおさんは、

「きしゃ、

きしゃ、

はしれ、

しゅっぽっぽ。」

と、うたいました。

よしこさんも

いっしょに

うたいました。

まさおさんは、
 よしこさんと いなご
 を 取りました。

川に ききました。
 ふなが いました。
 子どもが ふなを
 とって いました。



しろは たんぼに はい
 りました。

「わん、わん。」
 と、よんで います。

まさおさんは、はしって
 いきました。

いなごが、
 ぴよん、
 ぴよん、
 とんで います。



四 あかどんぼ

みんなは、また、あるきだ
しました。

まさおさんが、

「お日さま、きらきら」。

と、うたいだしました。

よしこさんも ひろしさん

も うたいました。

みちの 上を、あかどんぼ
が とんで います。

たかい ところを

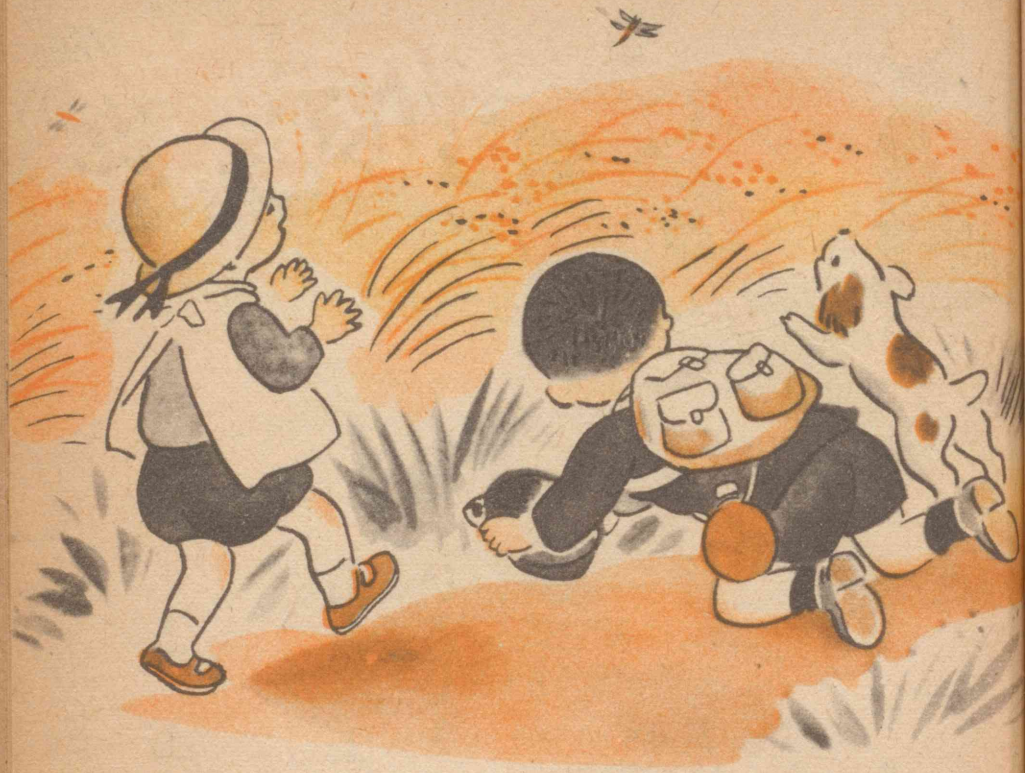
とんで います。

ひくい ところを

とんで います。

なんびきも なんびきも

とんで います。



あかとんぼが、くさの
 上にとまりました。
 ひろしさんは、
 「とまった。」
 「とまった。」
 と、いいました。
 まさおさんは、ぼうしを
 さつと かぶせました。



あかとんぼは
 すうつと にげました。
 たかく とんで
 いきます。
 ひろしさんは、
 「にげた。」
 「にげた。」
 と、いって、わらいまし
 た。



五 山の上

山の上に きました。

ひろしさんは、

「たかい、たかい。」

と いった、よろこびました。

まさおさんは、あるいて きた

ほうを みました。

みちが「く」の じに

みえます。

おかあさんが、

「みんなの あるいて

きた みちですよ。」

と、おっしゃいました。

みちは おうちの

ほうまで つづいて

います。

たんぼも みえます。

いえも みえます。



「ぽぽう。」

と、いう、おどが

きこえました。

きしやが、はしって

います。

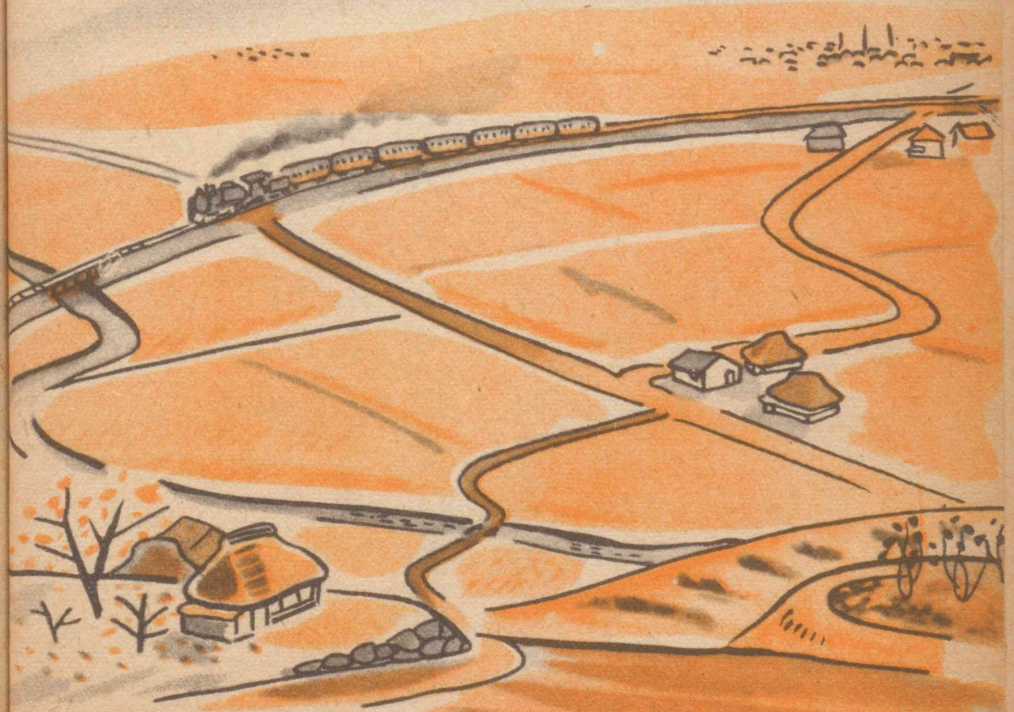
ひろしさんが、

「おもちゃの、きしやね。」

と、いいました。

みんな

わらいだしました。



おかあさんが、

「おべんどうを

たべましょう。」

と、おっしゃいました。

ひろしさんは

大よろこびです。

みんなでおべんどうを

たべました。

しろも たべました。

(四) ゆうはんが すんで

一 おてつだい

ゆうはんが すみました。
おねえさんが、

「おてつだいしましょう。」
と、いいました。
まさおさんが、



「しましょう。」
と、いって、たちました。

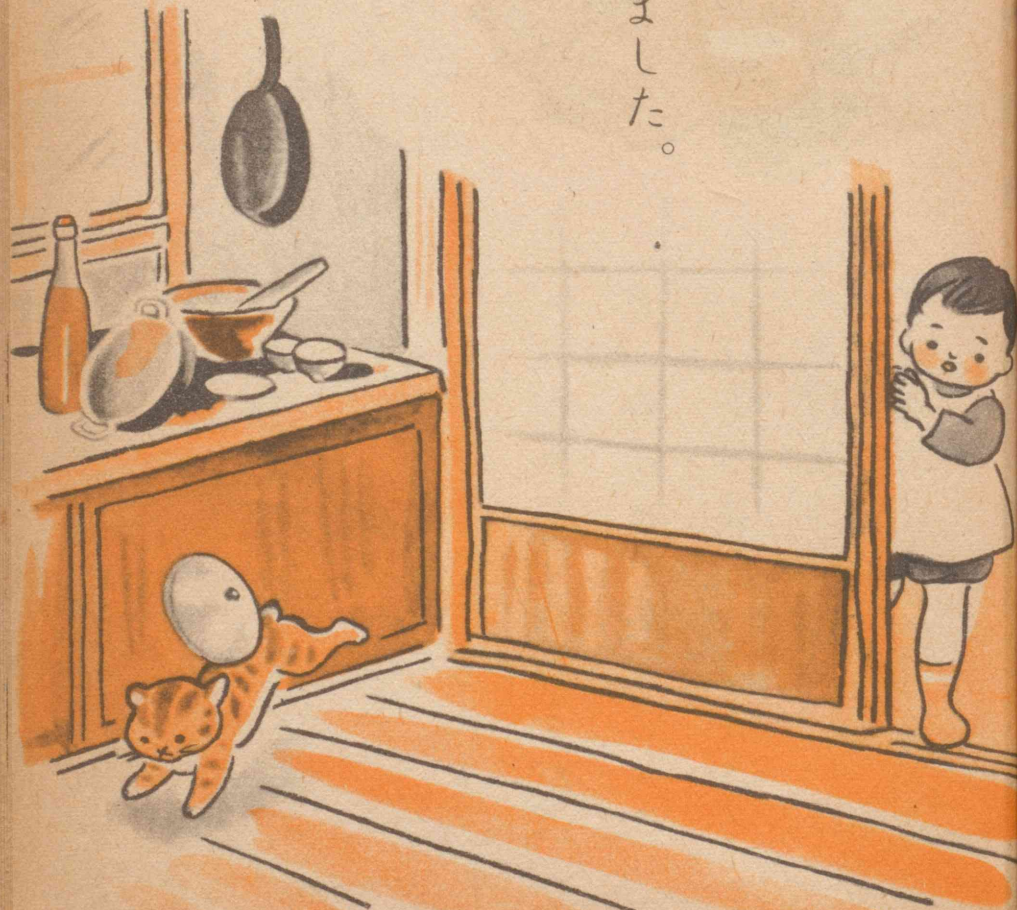
よしこさんも たちました。
「ぼくも するよ。」

と、いって、ひろしさんも
たちました。

「では、おちやわんを
あつめます。」
と、よしこさんが 大きな
こえで、いいました。



と、なきました。
「にやあん。」
と、なきました。
ひろしさんが、
「ねこが、ねこが」
と、いいました。



ねこが きました。
なべの 上に
あがりました。

なべが ころがりました。

ねこは、

「にやあん。」

と、なきました。

ひろしさんが、

「ねこが、ねこが」

と、いいました。



「大きな おちやわん、大きな 人。」

ちいさな おちやわん、

ちいさな 人。

はい、はい、みんなで

はこびます。」

と、まさおさんが うたいました。

みんなが わらいました。

おかあさんが、

「おてつだい ありがとう。」

とおっしゃいました。

二 らじお

おてつだいが すみしました。みんなは、おとうさんの
ところへ いきました。ひろしさんが、

「おとうさん、うたを
うたって ちょうだい」。
と、いいました。
「よし、よし、うたって
あげよう」。
と、おとうさんは



「さあ、うたうよ」と、おっしやいました。
みんなは、おとうさんと いっしょに うたいました。

「子どもの じかんが
きました。『うさぎの
でんぱう』を うた
いましょう」。
と、いいました。
おとうさんが、

うさぎの でんぼう

えっさっさ、

えっさっさ。

ぴよん ぴよん うさぎが、

えっさっさ。

おじさん おはよう、

えっさっさ。

おばさん おはよう、

えっさっさ。

おててを ふりふり、

えっさっさ。

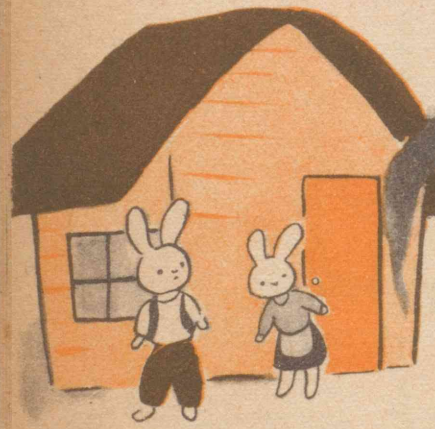
おみみを ふりふり、

えっさっさ。

でんぼう、

でんぼう、

えっさっさ。



よしこさんが かせいを
 しました。
 「よっ、よっ、よっ」
 また、まけました。
 ひろしさんも かせいを
 しました。
 「よっ、よっ、よっ」
 おとうさんが まけました。
 おねえさんは、おもしろそ
 うに みて います。



三 うでずもう
 おとうさんが、
 「まさお、うでずもうを
 しよう」
 と、おっしゃいました。
 「しましう」
 と、まさおさんが いました。
 「よっ、よっ、よっ」
 まさおさんが まけました。

と、
 ひろしさんが
 いました。
 「ひろしさんの
 おむすびが、ころころ
 ころがつてね。」
 と、まさおさんが
 いました。
 おむすびは どこへ
 いったの
 でしょう。



四 おはなし
 おむすび ころころ
 おとうさんが、
 「ひろしさん、山の 上は
 おもしろかったの。」
 と、おききに になりました。
 「おもしろかったよ。
 おむすびが
 おもしろかった。」



ふなと おむすび

おむすびは、ころころ
ころがって、ぽちやんと いけに
おちました。

「おや、へんな ものが おちて きたぞ。」

ふなが、すうつと ちかよって きました。ふなは、

「きみは だれだい。」と、いいました。

「おむすびと いう ものです。」

「おむすびなんて きいた ことが ないな。」

「どこから きたの。」

「山の 上からです。」

そこへ、もう いっぴきの

ふなが きました。

「それは なんですか。」

「わからないんだよ。」

「じゃ、からすのおじさん

に きいて みましよう。」

ふたりは からすさんの

ところへ いきました。



おじさんは、

「それはたいへんなものがおちてきたね。ふなさんたち、たべたの。」と、いいました。

「いや、たべませんよ。」

「それはよかった。はやくここへもつてきなさい。おじさんが、どこかへすててあげよう。」

そこへ、ぼっちゃんがきました。

「おや、いけの中に おむすびが おちて いるよ。ふなさんたち、どうして たべないのだらう。」

と、いいました。



おしごとの てびき

(一) あさ

1 あさの ところを、なんべんも よみましょう。

2 えをみて、□の なかに ことばを いれましょう。(おはなしの わかるように するのです)

○おひさま、おひさま、

□□□□。

○□□□の □□□□、うれしいな。

□□□□ きらきら、うれしいな。

○あさがおが □□□□。

あかい □□□□。

□□□□ あさがお。

いつつ □□□□。

○□□□□が、しんぶんをみて

いらっしやいます。

まさおさんも □□□□。

ひろしさんも □□□□。

(二) かわいい おともたち

1 かわいい おともたちの ところを

・なんべんも よみましよう。

2 まさおさんの かわいい おともだち
を、かきましよう。

□□□□

□□□□

□□。

□□□□□□□□

3 まさおさんの かわいい おともだち
と、あそんで いる ひとに、○を つ
けましよう。

おとうさん。

まさおさん。

おねえさん。

ひろしさん。

よしこさん。

おかあさん。

かわいい おともだちが ありますか。
かわいい おともだちの なを かいて
ごらん。

(三) みんな いっしょに

1 みんな いっしょにの ところを つ
づけて よみましよう。

2 おべんとうは だれが つくりましたか。
つくった ひとの 上に ○を つ

けなさい。

よしこさん。

まさおさん。

おかあさん。

ひろしさん。

4 □の なかに ことばを いれて、

おはなが わかるように しましよう。

○ひよこは □□□□を します。

○ひろしさんが、うさぎを □□しました。

○□□□□が、「うさぎさんの め

□□□□」ど、いいました。

○まさおさんが □□□ど、しろも

はしります。

○まさおさんは「□□□□□□□□□□」ど、

うたいました。

5 みなさんは、まさおさんのように、

おとうさん。 おねえさん。

○おべんとうを もって どこへ い

ったのでしよう。○を つけなさい。

まち。山。おうち。たんぼ。

3 □の なかに ことばを いれて、

おはなが わかるように しましよう。

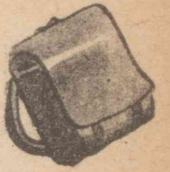
○□□□□□□のおべんとう。

よしこさんの □□□□□□。

□□□□□□のおべんとう。

○まさおさんは、よしこさんと □□

つなぎました。



あたらしくとたことば

あかい..... 6
 あかどんぼ..... 32
 ありがとうございます(あがる)..... 43
 あげます(あげる)..... 23
 あさ..... 4
 あさがお..... 6
 あさねぼう..... 10
 あつめます(あつめる)..... 41
 あらって(あらう)..... 5
 ありがとう..... 42
 ある..... 10
 あるきでした(あるきだす)..... 32
 いて(いう)..... 8
 え..... 29
 いきます(いく)..... 13
 いけ..... 52
 いっしょに..... 23
 いなかみち..... 29
 いなご..... 30
 いや..... 54

いらつしゃいます(いらつしゃる)..... 9
 いる..... 7
 う..... 33
 うた..... 44
 うたいました(うたう)..... 22
 うち(おうち)..... 26
 うでずもう..... 48
 えさ..... 12
 えっさっさ..... 46
 おいしい..... 24
 おおよろこび..... 39
 おおきな..... 41
 おきになりました(きる)..... 50
 おじさん..... 46
 おたち(たつ)..... 19
 おちました(おちる)..... 52
 おっしゃいました(おっしゃる)..... 8
 おと..... 38

おばさん..... 46
 おひさま..... 4
 おまわり(まわる)..... 19
 おむすび..... 24
 おもしろそうに..... 49
 おや..... 12
 おやどり..... 52
 おお(おかお)..... 5
 かせい..... 49
 からす..... 53
 かわ..... 31
 きこえました(きこえる)..... 38
 きて(きる)..... 21
 きました(くる)..... 9
 きみ..... 52
 きようそう..... 15
 きらきら..... 4
 きれい..... 4

くさ..... 14
 こえ..... 41
 こっここ..... 12
 こと..... 52
 ことも..... 31
 ころころ..... 50
 さあ..... 45
 さいた(さく)..... 6
 さっと..... 34
 じ..... 36
 じかん..... 45
 じゃ..... 53
 しろい..... 6
 しんぶん..... 9
 すうっと..... 35
 すてて(すてる)..... 54
 すんで(すむ)..... 40
 そこ..... 53

それ..... 53
 たいそう..... 5
 たいへんな..... 54
 たかい..... 33
 だかれて(だく)..... 13
 たべます(たべる)..... 14
 だれ..... 52
 たんぼ..... 29
 ちかよって(ちかよる)..... 52
 ちやわん(おちやわん)..... 41
 ちようだい..... 44
 ついて(つく)..... 26
 つづいて(つづく)..... 37
 つなぎました(つなぐ)..... 26
 て..... 26
 できました(できる)..... 25
 てつだい(おてつだい)..... 40
 できました(てる)..... 8
 でんぼう..... 45

どうして..... 54
 どこ..... 51
 どころ..... 27
 とって(とる)..... 18
 とびおきました(とびおきる)..... 8
 とまりました(とまる)..... 34
 ともたち(おともたち)..... 11
 どりあい(とる)..... 12
 ない..... 52
 なか..... 54
 なきました(なく)..... 43
 なに..... 10
 なべ..... 43
 なりました(なる)..... 45
 にげました(にげる)..... 35
 にやあん..... 43
 にんぎょう..... 20
 ねこ..... 13
 ねえさん..... 23
 ねんねんころりよ..... 22

Copyright 1949, by
The Gakkō Tosho Kenkyukai

All rights reserved.
The text of this publication or any part thereof
may not be reproduced in any manner whatsoever
without permission in writing from the authors.

小国117

こくご 一ねんせい 中
Approved by Ministry of Education
(Date Jul. 8, 1949)

感謝のことば

「うさぎの でんぼう」：北原白秋氏作
右の作品を本書に掲載させていただきました
ましたことについて、著作者の方に厚
く感謝申し上げます。

編者

広島市東千田町
広島高等師範学校附属小学校内
財団法人 学校図書研究会

執筆担当者 広島高等師範学校教諭

表紙と
さしえ
今石光 大西久一 小川利雄 原田直茂 田中壽太郎

こくご一ねんせい 中の編修について

一 本書は、教育基本法・学校教育法・学習指導要領一般編・同国語科編・小学校国語科検定基準などの趣旨を具体的に現わすことにとつとめた。そのため、単元学習をもととし、児童の興味や生活経験や心理的発達段階に副うよう特別の注意をはらった。一年用は上・中・下の三冊とし、二年以上は二冊とした。一年上は四・五月に、一年中は六月から十月まで、一年下は十一月から三月まで使用するようになっていた。
二 本巻の単元はまさお（主人公）の家庭生活を中心としての一日の生活をもととしている。すなわち、「あさ」ではまさおの一日の出發についてのべ、「かわいいおともだち」では、まさおと生活を共にしている動物や人形について述べ、「みんないっしょに」ではまさおを中心として楽しいピクニックをすることによって種々の経験をさせ、「夕はんがすんで」では、一日の反省と生活のま

とめをなすようになっていた。こうした間に自ら国語の基礎的な訓練を計っている。

三 本巻の新出語いは総数百二十九語である。各頁の語いは二乃至三語にとどめている。語の選定に当っては児童の生活に即したものの、基本的なものを選ぶことにとつとめた。文章は主部述部の関係のはっきりした基本的なものを出し、日本語の基礎的構造を明らかにすることにとつとめた。

四 巻末に新出語い表と「おしごとの手びき」とをのせ学習の便を計った。おしごとの手びきは各単元ごとに出し、学習効果の判定と児童の能力によって自発学習が進められるようにつくりだされている。指導者はこの手びきをもととして各方面から児童の国語力を発展させる作業課題を構成することが望ましい。

昭和二十四年七月八日印刷
昭和二十四年七月十二日発行

定価 円 銭

著作者 財団法人 学校図書研究会
会長 森岡文策

発行者 東京都港区芝三田豊岡町八番地
学校図書株式会社
代表者 川口芳太郎

印刷者 東京都港区芝三田豊岡町八番地
図書印刷株式会社
代表者 川口芳太郎

発行者

東京都港区芝三田豊岡町八番地
学校図書株式会社

本書の指導書・ワークブック・付録書並びにこれに類する一切のもの無断発行を禁ずる

広島大学図書

0130449927

